

小説『泥流地帯』『陸泥流地帯』

# 映画化プロジェクト

# ニッポン

2023  
6/22  
発行

かみいの

連携  
事業

三浦綾子記念文学館



公式WEBページ

発行：『泥流地帯』映画化を進める会事務局  
(上富良野町企画商工観光課 電話 0167-45-6983)

6月

## 悲願に向けて、再始動

### 映画化に関する

### 連携協定を締結

昨年12月、上富良野町と泥流地帯映画製作に関する連携協定を締結していた株式会社Zipang(東京都)の映画事業からの事実上の撤退により、連携協定を解消。新たな映画化の手法などを検討してきた上富良野町は6月19日、「三度目の正直」となる連携協定を(株)A-Films、合同会社MiPS両社(いずれも東京都)と締結した。

映画公開やロケ地観光の推進などを含めて約束する前回までの協定と異なり、今回の協定ではまず映画企画やシナリオの制作までを行い、次の段階で映画製作委員会の構成を目指すこととしている。



右から映画化を進める会青野会長、斉藤町長、A-Films 小笠原社長、A-Team 高木社長、MiPS 田中氏 (6/19 調印式。都内にて)

## 泥流から百年の節目に向けて

公開の目標は泥流災害から百年の節目を迎える2026年。

円滑に事業を進めるための調整や助言を行う企業を新たに加え、三者協定とした。

三者目となるのは、現在「地域活性化起業人」として上富良野の地域おこしなどに関わる田中康之氏が所属する合同会社MiPS(東京都)。映画製作やロケツアーリズムに深く関わった知見やネットワークを活かして『泥流地帯』悲願の実写映画化に向けた取り組みを進める。

『おくりびと』の滝田洋二郎氏が企画に参加。

ロケハン、シナハンがスタート

映画企画には日本作品で初めて米アカデミー賞外国語作品賞を受賞した『おくりびと』(2008年)の映画監督・滝田洋二郎氏が参加。同氏はA-Films社のグループ企業A-Team所属。

連携協定に先立ち上富良野町を何度も訪れ、作者の三浦綾子さんのような綿密なロケハンに取り組んでいる。あくまでも企画での

の企画であり監督起用を決定するのは来年立ち上がる見込みの製作委員会。現状は白紙の状態だが、滝田監督作品のファンでもある斉藤町長は「滝田氏が紡ぐ『泥流地帯』は大きな魅力。メガホンをとっていただくことは上富良野にとって理想的」と大きな期待を寄せる。



十勝岳噴火の様子を熱心に聞き入る滝田氏(右から2人目)